

付 録

明治以降の主な火災

(表中の平成 22 年以前は、旧弘前地区消防事務組合管内で発生した災害のみ掲載)

明治 13 年 5 月 15 日	元寺町より出火し、本町、元大工町、元長町、親方町、元寺町、元寺町小路、上鞆師町、鉄砲町、一番町、百石町、下土手町、鍛冶町、新鍛冶町、北川端町、桶屋町にかけて、1,064 戸焼損。死者 3 名
明治 18 年 9 月 12 日	中郡公立中学校より出火し、同校及び東奥義塾全焼
10 月 21 日	和徳町より出火、代官町、茶畑町に延焼し、100 戸焼損
明治 22 年 10 月 25 日	東奥義塾より出火し、2 棟 400 坪全焼
明治 23 年 3 月 4 日	第一大成小学校全焼
明治 25 年 6 月 20 日	市役所、警察署、県尋常中学校焼損
明治 34 年 5 月 1 日	楮町より出火、松森町に延焼し、61 戸焼損
明治 36 年 5 月 8 日	元寺町の旅館より出火し、55 戸焼損
明治 39 年 4 月 21 日	弘前城北の郭の櫓、花火により焼損
5 月 25 日	輔重隊より出火し、大隊本部、1. 2 中隊舎 7 棟、332 坪焼損
8 月 23 日	弘前城西の郭の櫓(埋御門内側)焼損
9 月 28 日	土手町蓬莱橋際より出火し、38 戸焼損
明治 42 年 5 月 2 日	鞆師町より出火、百石町に延焼し、43 戸焼損、死者 3 名
明治 43 年 12 月 7 日	土手町の旅館より出火し、44 戸焼損、死者 1 名
大正 2 年 12 月 4 日	弘前裁判所全焼、4 棟 113 坪焼損
大正 6 年 5 月 18 日	清水村富田より出火、土手町、品川町、新品川町、松森町、楮町、新楮町、豊田村小比内、外崎一円が焼損。全焼 533 戸、半焼 8 戸、死者 1 名、郡役所、清水村役場、第二大成小学校焼損
昭和 2 年 5 月 29 日	北横町遊郭より出火し、和徳町、南横町、萱町、植田町、代官町、茶畑町、和徳町の一部を焼損、全焼 538 戸の外、和徳小学校焼損
昭和 3 年 4 月 18 日	富田町より出火、富田大通、偕行社通、住吉町、中土手町、上土手町、松森町、品川町、新品川町、楮町、代官町、上瓦ヶ町、和徳町、停車場通、豊田村の一部に及び全焼 610 戸、半焼 19 戸、死者 1 名、第一大成小学校、第二大成小学校焼損
11 月 8 日	富田小学校焼損
昭和 5 年 6 月 15 日	時敏小学校焼損
昭和 9 年 5 月 18 日	市立弘前病院焼損、4 棟 400 坪
昭和 22 年 2 月 5 日	紺屋町秩父宮殿下元御仮邸(菊池別邸)全焼、3 棟 1,386 m ² 焼損
昭和 24 年 4 月 14 日	津軽病院全焼、8 棟焼損 (5,221 m ²)、死者 5 名
4 月 18 日	弘前税務署(元師団経理部)全焼、3 棟焼損 (1,274 m ²)
10 月 12 日	時敏小学校焼損
10 月 23 日	朝陽小学校全焼、塩分町、15 戸焼損
12 月 31 日	弘前裁判所全焼

昭和 27 年 5 月 4 日	土手町繁華街(蓬莱橋東側) 16 戸焼損
12 月 20 日	上白銀町 藤田別邸焼損(1,079 m ²)
昭和 31 年 5 月 21 日	弘前市小比内地区、全焼(住家 10 戸、非住家 17 棟)、半焼(住家 1 戸、非住家 1 棟)
7 月 21 日	第一中学校一部焼損(832 m ²)
昭和 35 年 5 月 13 日	柴田学園全焼、北瓦ヶ町 10 戸焼損(6,280 m ²)
昭和 37 年 1 月 27 日	下白銀町 弘前大学教育学部西校舎焼損(3,098 m ²)
昭和 39 年 4 月 6 日	土手町 Kデパート焼損(1,377 m ²)
昭和 42 年 4 月 17 日	富田町印刷工場全焼(1,075 m ²)
昭和 44 年 1 月 31 日	弘前高等学校焼損(1,130 m ²)
1 月 31 日	津軽病院全焼(4,125 m ²)
昭和 47 年 7 月 20 日	柴田女子高校全焼(2,460 m ²)
昭和 50 年 10 月 12 日	西目屋中学校全焼(1,497 m ²)
昭和 54 年 8 月 21 日	一野渡鷺ノ巣国有林 1,110a 焼損
昭和 59 年 10 月 18 日	相馬村、りんごパック製造工場全焼 (1,376 m ²)、損害額 1 億 323 万円
昭和 60 年 6 月 29 日	一野渡鷺ノ巣国有林 620a 焼損
昭和 61 年 2 月 8 日	大森 知的障害者更生施設焼損(145 m ²)、死者 2 名、負傷者 6 名
3 月 28 日	清水二丁目 缶詰工場焼損(1,524 m ²)、損害額 1 億 9,682 万円
平成 8 年 11 月 1 日	碓ヶ関村 旅館 2 棟全焼(1,692 m ²)、死者 1 名、負傷者 2 名、損害額 5,961 万円
平成 13 年 5 月 8 日	消費者金融支店 (Nビル 3 階)、96.30 m ² のうち事務室及び管理室 85.16 m ² 焼損、死者 5 名、負傷者 4 名
平成 16 年 1 月 3 日	大鰐町 住宅 1 棟焼損 (132 m ²)、死者 5 名、負傷者 2 名
1 月 26 日	弘前市国吉 温泉旅館 1 棟焼損 (1,077 m ²)、損害額 1 億 1,059 万円
平成 17 年 9 月 5 日	弘前市 連続 8 件火災(建物 6、車輛 1、その他 1)
12 月 25 日	常盤村 住宅 1 棟全焼(145 m ²)、死者 3 名、負傷者 1 名
平成 21 年 3 月 8 日	弘前市 住宅等 7 棟焼損(1,667 m ²)、負傷者 1 名
平成 22 年 11 月 20 日	弘前市 飲食店舗兼住宅等 6 棟焼損(505 m ²)、死者 1 名、負傷者 10 名
平成 26 年 4 月 27 日	大鰐町 住宅等 18 棟焼損(1,012 m ²)、死者 1 名
6 月 5 日	大鰐町 国有林 15.64ha 焼損
平成 27 年 8 月 4 日	大鰐町 作業所兼住宅等 14 棟焼損 (1,848 m ²)、負傷者 4 名
9 月 18 日	黒石市 小学校 1 棟焼損 (48 m ²)、死者 1 名、負傷者 7 名

明治以降の主な災害（火災を除く）

（表中の平成9年以前は、旧弘前地区消防事務組合管内で発生した災害のみ掲載）

明治 29 年 7 月 21 日	県下到大雨あり、土洳川氾濫、徒町川端一帯床上浸水
昭和 7 年 8 月 3 日 5 日	津軽地方 30 年来の洪水、岩木川、土洳川氾濫、駒越町、新町、徒町川端町、北横町、品川町被害甚大、床上浸水 41 棟、床下 90 棟、南塘は鏡ヶ池再現
昭和 10 年 8 月 21 日 24 日	豪雨により土洳川氾濫、床上浸水 73 棟、床下浸水 369 棟 平川の氾濫により大鰐町全町浸水、平川鉄橋流失、死者行方不明 25 名、負傷者 181 名
昭和 30 年 7 月 3 日 4 日	津軽地方一帯豪雨となり、各河川が急激に増水し、岩木川氾濫 3 橋梁流失
8 月 20 日	中弘地方を襲った豪雨で、岩木川氾濫、目屋の 4 橋梁流失
昭和 33 年 8 月 11 日 12 日	豪雨により岩木川氾濫、下町を中心に 51 町会 3,037 世帯被害、家屋全壊流失 45 棟、半壊 90 棟、床上浸水 1,435 棟、床下浸水 1,467 棟、死者 3 名、11 橋梁流出、損害合計 13 億 5 千万円
9 月 17 日 18 日	台風 21 号の影響により、土洳川氾濫、唐金橋外 4 橋梁流出、家屋全壊流失 37 棟、半壊 7 棟、床上浸水 570 棟、床下浸水 988 棟
昭和 35 年 8 月 2 日 3 日	津軽地方の豪雨により、平川氾濫、田町、三八町の外、和徳、千年、新和、石川地区被害、全壊流失 3 棟、半壊 6 棟、床上浸水 340 棟、床下浸水 600 棟、死者 3 名、損害合計 3 億 8,222 万円
昭和 50 年 8 月 5 日 6 日	津軽地方を襲った豪雨は、弘前市をはじめ各地で大きな被害、なかでも岩木町百沢で蔵助沢の鉄砲水により死者 22 名、負傷者 45 名と局地災害では、県水害史上最大の被害となった。
8 月 20 日	津軽地方の大雨により、土洳川氾濫、小沢地区から平川合流点に至る 14.8 km の沿岸一帯被害、全壊流失 33 棟、半壊 29 棟、床上浸水 1,403 棟、床下浸水 2,072 棟、損害合計 46 億 6,459 万円

昭和 52 年 8 月 5 日

集中豪雨により土渕川、寺沢川氾濫、特に寺沢川上流の溜池決壊により急激な増水、死者 9 名、負傷者 20 名、人命救助 344 名、全壊流失 12 棟、半壊 76 棟、床上浸水 1,943 棟、床下浸水 2,972 棟、損害合計 71 億 1,234 万円

平成 3 年 9 月 28 日

台風 19 号の暴風により、組合管内で大きな被害を受けた。

		弘前市	大鰐町	藤崎町	岩木町	常盤村	碓ヶ関村	相馬村	西目屋村
人的被害(名)	死 者	3			1				
	負傷者	重傷	2	5			1	1	
		軽傷	9	25	3	2	6	1	2
	合 計	14	30	3	3	6	2	3	1
家屋被害(棟)	全 壊	26	18		3	3		1	
	半 壊	270	169	71	48	49	17	13	1
	一部損壊	4,948	668	402	351	210	152	60	44
	合 計	5,244	855	473	402	262	169	74	45
損害額(万円)	建物関係	377,380	91,330	41,870	34,560	32,760	13,670	7,350	2,890
	農林関係	2,415,705	609,866	265,371	572,995	47,362	157,030	335,423	71,666
	合 計	2,793,085	701,196	307,241	607,555	80,122	170,700	342,773	74,556

平成 9 年 5 月 7 日
9 日

発達した低気圧による風雨と目屋ダムの放水(最大放水量 792 m³/秒)により組合管内に大きな風雨被害を受けた。被害総額 3,237,640 千円

弘 前 市	住家一半壊 1 棟、1 部損壊 1 棟、床上浸水 1 棟、床下浸水 3 棟
岩 木 町	住家一床下浸水 1 棟、浸水被害一水田 32 a 岩木川沿地区 256 戸に避難勧告
相 馬 村	住家一床上浸水 5 棟、床下浸水 7 棟、浸水被害一水田 20 a 紙漉沢、五所地区 39 戸に避難指示
大 鰐 町	宿川原橋損壊、虹貝地区道路陥没
藤 崎 町	浸水被害一りんご園 67ha
碓ヶ関村	土砂崩壊、林道決壊
西目屋村	村内電話不通 435 回線

平成 25 年 9 月 16 日

台風 18 号の影響により、県内は猛烈な雨に見舞われ、降り始めからの総雨量（気象庁の観測データ）は、大鰐町で 214 ミリ、弘前市で 202 ミリ、平川市で 201 ミリ、黒石市で 188 ミリを記録し、河川の氾濫や土砂崩れ、住宅の浸水、りんご園地等の浸水など津軽地方に甚大な被害をもたらした。

平成 28 年 4 月 17 日

発達した低気圧による暴風により組合管内に大きな被害を受けた。

			弘前市	黒石市	平川市	藤崎町	大鰐町	板柳町	田舎館村	西目屋村
人的被害 (名)	負傷者	重傷	1			1		1		
		軽傷								
	合 計		1			1		1		
家屋・農業施設被害 (棟)	全 壊		42	14	14	22	14	2	7	
	半 壊		22	18		16	18	3	9	
	一部損壊		166	7	79	99	7	31	54	
	合 計		230	39	93	137	39	36	70	
損害額(万円)			5, 098	118	1, 756	2, 133	1, 069	354	1, 576	0

歴 代 消 防 長 等

(平成30年4月1日現在)
※各表の階級欄は就任時の階級

弘前地区消防事務組合消防長

旧 弘 前 市 消 防 本 部 S24. 4. 1～S46. 3. 31
旧弘前地区消防事務組合 S46. 4. 1～H25. 6. 30
新弘前地区消防事務組合 H25. 7. 1～

歴 代	階 級	氏 名	就任年月日	退任年月日	摘 要
初代	消 防 長	岩 淵 勉	S24. 4. 27		弘前市長兼任
2代	消 防 司 令 長	石 川 源 太	S24. 5. 31	S29. 2. 19	
3代	消 防 監 補	桑 田 善 太 郎	S29. 4. 1	S32. 10. 31	
4代	消 防 監	上 田 勝 夫	S32. 11. 1	S37. 7. 8	
5代	〃	伴 一 衛	S37. 7. 9	S39. 8. 17	
6代	〃	桑 田 貞 一	S39. 8. 18	S50. 9. 30	
7代	〃	福 井 正 男	S50. 10. 1	S55. 9. 30	(S55. 4. 1 消防正監)
8代	消 防 正 監	工 藤 富 蔵	S55. 10. 1	S56. 9. 30	
9代	〃	長 津 丈	S56. 10. 1	S60. 3. 31	
10代	〃	猪 股 清 市 郎	S60. 4. 1	H 元. 3. 31	
11代	〃	中 村 昭 雄	H 元. 4. 1	H 4. 3. 31	
12代	〃	石 戸 谷 一 弘	H 4. 4. 1	H 7. 3. 31	
13代	〃	相 馬 達 三	H 7. 4. 1	H12. 3. 31	
14代	〃	小 山 内 司	H12. 4. 1	H14. 3. 31	
15代	〃	成 田 文 英	H14. 4. 1	H19. 3. 31	
16代	〃	尾 崎 善 造	H19. 4. 1	H20. 3. 31	
17代	〃	齋 藤 則 明	H20. 4. 1	H21. 3. 31	
18代	〃	小 田 桐 伸 一	H21. 4. 1	H23. 3. 31	
19代	〃	木 村 誠 二	H23. 4. 1	H26. 3. 31	
20代	〃	福 士 文 敏	H26. 4. 1	H30. 3. 31	
21代	〃	三 浦 良 樹	H30. 4. 1	在職中	

旧黒石地区消防事務組合消防長

旧黒石町消防本部 S27. 4. 1～S29. 6. 30
旧黒石市消防本部 S29. 7. 1～S46. 3. 31
旧黒石地区消防事務組合 S46. 4. 1～H25. 6. 30

歴代	階級	氏名	就任年月日	退任年月日	摘要
初代	消防司令	岡崎良雄	S27. 4. 1	S33. 3. 31	
2代		鳴海清四郎	S33. 4. 1	S33. 8. 9	黒石市助役兼任
3代		高樋竹次郎	S33. 8. 10	S47. 3. 9	黒石市長、管理者兼任
4代	消防監	角田壮一	S47. 3. 10	S54. 7. 31	
5代	〃	山口勇蔵	S54. 8. 1	S56. 3. 31	
6代	〃	田中寿	S56. 4. 1	S60. 3. 31	
7代	〃	岡崎俊司	S60. 4. 1	H 2. 3. 31	
8代	〃	中村民蔵	H 2. 4. 1	H 4. 3. 31	
9代	〃	工藤龍明	H 4. 4. 1	H 5. 3. 31	
10代	〃	高樋浅光	H 5. 4. 1	H 7. 3. 31	
11代	〃	工藤茂春	H 7. 4. 1	H 8. 3. 31	
12代	〃	佐藤信男	H 8. 4. 1	H13. 3. 31	
13代	〃	盛鐘治	H13. 4. 1	H16. 3. 31	
14代	〃	中村寿	H16. 4. 1	H21. 3. 31	
15代	〃	森勇一	H21. 4. 1	H22. 3. 31	
16代	〃	丹羽仁吉	H22. 4. 1	H23. 3. 31	
17代	〃	佐藤友昭	H23. 4. 1	H24. 3. 31	
18代	〃	種市達男	H24. 4. 1	H25. 6. 30	

旧平川市消防本部消防長

旧平賀・尾上地区消防事務組合 S44. 4. 1～H10. 7. 2
旧平賀・尾上地区消防等事務組合 H10. 7. 3～H17. 12. 31
旧平川市消防本部 S46. 4. 1～H25. 6. 30

歴代	階級	氏名	就任年月日	退任年月日	摘要
初代	消防監	水木強二	S44. 4. 1	S53. 12. 6	平賀町長
2代	〃	原田忠太郎	S53. 12. 7	S61. 12. 6	〃
3代	〃	奈良蓮雄	S61. 12. 8	H 2. 2. 21	〃
4代	〃	長内精四郎	H 2. 2. 22	H 3. 3. 31	
5代	〃	菊池今朝男	H 3. 4. 1	H 3. 8. 15	
6代	〃	木村丞	H 3. 8. 16	H 5. 3. 31	
7代	〃	船越暁穂	H 5. 4. 1	H 8. 3. 31	
8代	〃	富谷正男	H 8. 4. 1	H10. 3. 31	
9代	〃	成田忠則	H10. 4. 1	H16. 3. 31	
10代	〃	三浦久	H16. 4. 1	H17. 12. 31	
	消防司令長	稲葉良三	H18. 1. 1	H18. 3. 31	職務代理者（次長）
11代	消防監	菊池吉郎	H18. 4. 1	H22. 3. 31	
12代	消防司令長	駒井祐正	H22. 4. 1	H25. 6. 30	

旧板柳町消防本部消防長

旧板柳町消防本部 S42. 4. 1～H25. 6. 30

歴代	階級	氏名	就任年月日	退任年月日	摘要
初代		木村定吉	S42. 4. 1	S42. 4. 29	板柳町長
2代		竹浪春夫	S42. 4. 30	S62. 4. 29	〃
3代		木村章一	S62. 4. 30	H 元. 8. 31	〃
4代	消防監	阿保小東	H 元. 9. 1	H 2. 3. 31	署長兼任
5代	〃	三浦得三郎	H 5. 4. 1	H11. 3. 31	
6代	〃	竹内秀次	H11. 4. 1	H15. 3. 31	
7代	〃	三上壽満	H15. 4. 1	H17. 3. 31	
8代	〃	三上秀治	H17. 4. 1	H21. 3. 31	
9代	消防司令長	中村徹	H21. 4. 1	H24. 3. 31	
10代	〃	阿保久	H24. 4. 1	H25. 6. 30	

弘前地区消防事務組合消防本部消防次長

歴代	階級	氏名	就任年月日	退任年月日	摘要
初代	消防司令	佐井 留太郎	S24. 5. 31	S27. 3. 2	
2代	消防司令長	小向 清之助	S27. 3. 3	S32. 10. 31	
3代	〃	対馬 庄一	S32. 11. 11	S37. 4. 8	
4代	〃	中村 忠治	S37. 4. 9	S42. 9. 30	
5代	消防司令	工藤 富蔵	S42. 10. 1	S43. 9. 30	
6代	〃	奈良 正美	S43. 10. 1	S44. 9. 27	
7代	〃	工藤 富蔵	S44. 10. 1	S44. 11. 30	
8代	消防司令長	福井 正男	S44. 12. 1	S50. 9. 30	
9代	〃	工藤 富蔵	S50. 10. 1	S52. 3. 31	
10代	〃	桜庭 達三	S52. 4. 1	S54. 3. 31	
11代	〃	工藤 富蔵	S54. 4. 1	S55. 9. 30	
12代	〃	宮崎 孝司	S55. 10. 1	S59. 3. 31	
13代	〃	竹内 實	S59. 4. 1	S63. 3. 31	
14代	〃	西沢 勝三	S63. 4. 1	H 2. 3. 31	
15代	〃	木村 悟	H 2. 4. 1	H 5. 3. 31	
16代	〃	相馬 達三	H 5. 4. 1	H 7. 3. 31	
17代	〃	田村 勝照	H 7. 4. 1	H11. 3. 31	
18代	消防監	佐藤 正蔵	H11. 4. 1	H14. 3. 31	
19代	消防司令長	猪股 進三	H14. 4. 1	H16. 3. 31	(H15. 4. 1 消防監)
20代	消防監	笹田 将良	H16. 4. 1	H18. 3. 31	
21代	〃	斎藤 伸夫	H18. 4. 1	H20. 3. 31	
22代	〃	小田 桐伸一	H20. 4. 1	H21. 3. 31	
23代	〃	秋元 裕	H21. 4. 1	H22. 3. 31	
24代	〃	木村 誠二	H22. 4. 1	H23. 3. 31	
25代	〃	佐藤 健治	H23. 4. 1	H24. 3. 31	
26代	〃	下山 俊光	H24. 4. 1	H26. 3. 31	
27代	〃	種市 達男	H26. 4. 1	H27. 3. 31	
28代	〃	阿保 弘毅	H27. 4. 1	H29. 3. 31	
29代	〃	三浦 良樹	H29. 4. 1	H30. 3. 31	
30代	〃	長尾 幸喜	H30. 4. 1	在職中	

方面本部長

弘前方面本部長

歴代	階級	氏名	就任年月日	退任年月日	摘要
初代	消防監	福士 文敏	H25. 7. 1	H26. 3. 31	消防次長兼任
2代	〃	工藤 弥司広	H26. 4. 1	H27. 3. 31	弘前消防署長兼任

黒石方面本部長

歴代	階級	氏名	就任年月日	退任年月日	摘要
初代	消防監	種市 達男	H25. 7. 1	H26. 3. 31	消防次長兼任
2代	〃	内山 進一郎	H26. 4. 1	H27. 3. 31	黒石消防署長兼任

平川方面本部長

歴代	階級	氏名	就任年月日	退任年月日	摘要
初代	消防司令長	石田 英造	H25. 7. 1	H26. 3. 31	消防次長兼任
2代	消防監	阿保 弘毅	H26. 4. 1	H27. 3. 31	平川消防署長兼任

板柳方面本部長

歴代	階級	氏名	就任年月日	退任年月日	摘要
初代	消防司令長	阿保久	H25. 7. 1	H27. 3. 31	板柳消防署長兼任 (H26. 4. 1 消防監)

旧黒石地区消防事務組合消防本部消防次長

歴代	階級	氏名	就任年月日	退任年月日	摘要
初代		角田壮一	S39. 1. 1	S46. 3. 31	黒石市助役兼任
2代	消防司令長	岩谷克己	S51. 4. 1	S55. 3. 31	
3代	〃	工藤龍明	H元. 4. 1	H 4. 3. 31	
4代	〃	高桶浅光	H 4. 4. 1	H 5. 3. 31	
5代	〃	工藤茂春	H 5. 4. 1	H 7. 3. 31	
6代	〃	佐藤信男	H 7. 4. 1	H 8. 3. 31	警防課長兼任
7代	〃	坂本吉雄	H 8. 4. 1	H10. 3. 31	
8代	〃	富谷勝徳	H10. 4. 1	H11. 3. 31	署長兼任
9代	〃	高田正志	H11. 4. 1	H12. 3. 31	〃
10代	〃	豊巻正夫	H12. 4. 1	H13. 3. 31	心得・総務課長
11代	〃	中村寿	H13. 4. 1	H16. 3. 31	
12代	〃	森勇一	H16. 4. 1	H21. 3. 31	
13代	〃	八木橋兼司	H21. 4. 1	H22. 3. 31	
14代	〃	佐藤友昭	H22. 4. 1	H23. 3. 31	
15代	〃	種市達男	H23. 4. 1	H24. 3. 31	総務課長兼任
16代	〃	内山進一郎	H24. 4. 1	H25. 6. 30	予防課長兼任

旧平川市消防本部消防次長

歴代	階級	氏名	就任年月日	退任年月日	摘要
初代	消防司令長	中畑忠三	S44. 4. 1	S48. 3. 31	署長兼任
2代	〃	古川清孝	S48. 4. 1	S49. 3. 31	〃
3代	〃	工藤専次郎	S49. 4. 1	S51. 6. 30	〃
4代	消防司令	船水永一郎	S51. 7. 1	S54. 3. 31	〃
5代	消防司令長	水木二郎	S54. 4. 1	S55. 3. 31	〃
6代	〃	阿部貞吉	S55. 4. 1	S57. 3. 31	〃
7代	〃	大川隆三	S57. 4. 1	S59. 12. 31	〃
8代	〃	三浦孝利	S60. 1. 1	S61. 3. 31	〃
9代	〃	長内精四郎	S61. 4. 1	H 2. 2. 22	〃
10代	〃	菊池今朝男	H 2. 2. 23	H 3. 3. 31	
11代	〃	工藤文夫	H 3. 4. 1	H 8. 3. 31	
12代	〃	工藤栄造	H 8. 4. 1	H14. 3. 31	
13代	〃	山本一雄	H14. 4. 1	H16. 3. 31	
14代	〃	稲葉良三	H16. 4. 1	H19. 3. 31	
15代	〃	齋藤満郎	H19. 4. 1	H20. 3. 31	
16代	〃	山口眞一	H20. 4. 1	H22. 3. 31	
17代	消防司令	山口勇一	H22. 4. 1	H23. 3. 31	
18代	〃	工藤義昭	H23. 4. 1	H24. 3. 31	
19代	〃	石田英浩	H24. 4. 1	H25. 6. 30	

旧板柳町消防本部消防次長

歴代	階級	氏名	就任年月日	退任年月日	摘要
初代		工藤信一	S42. 4. 1	S42. 8. 31	総務課長兼任
2代		成田勝俊	S42. 9. 1	S46. 3. 31	署長兼任
3代		桜庭敏男	S46. 4. 1	S52. 3. 31	〃
4代		内山富雄	S52. 4. 1	S54. 3. 31	〃
5代		中村忠次郎	S54. 4. 1	S60. 3. 31	〃
6代	消防司令長	阿保小東	S60. 4. 1	H元. 8. 31	〃
7代	〃	竹内秀次	H 5. 4. 1	H11. 3. 31	〃
8代	〃	佐藤廣美	H11. 4. 1	H16. 3. 31	〃
9代	〃	中村徹	H16. 4. 1	H21. 3. 31	
10代	消防司令	田中諭	H21. 4. 1	H22. 6. 30	署長兼任
11代	〃	阿保久	H22. 7. 1	H24. 3. 31	
12代	〃	三橋一徳	H24. 4. 1	H25. 3. 31	
13代	〃	村上毅	H25. 4. 1	H25. 6. 30	署長兼任

弘前消防署長

歴 代	階 級	氏 名	就任年月日	退任年月日	摘 要
初代	消 防 司 令 長	小 向 清 之 助	S24. 5. 31	S27. 3. 2	
2代	消 防 監 補	桑 田 善 太 郎	S32. 5. 1	S32. 10. 31	消防長兼任
3代	消 防 監	上 田 勝 夫	S32. 11. 1	S37. 7. 8	〃
4代	〃	伴 一 衛	S37. 7. 9	S39. 8. 17	〃
5代	〃	桑 田 貞 一	S39. 8. 18	S42. 9. 30	〃
6代	消 防 司 令 長	中 村 忠 治	S42. 10. 1	S43. 9. 30	
7代	〃	福 井 正 男	S43. 10. 1	S44. 11. 30	
8代	〃	工 藤 富 蔵	S44. 12. 1	S50. 9. 30	
9代	〃	白 取 嘉 四 雄	S50. 10. 1	S52. 3. 31	
10代	〃	工 藤 富 蔵	S52. 4. 1	S54. 3. 31	
11代	〃	白 取 嘉 四 雄	S54. 4. 1	S55. 9. 30	
12代	〃	建 部 清 五 郎	S55. 10. 1	S63. 3. 31	
13代	〃	工 藤 嘉 久	S63. 4. 1	H 2. 3. 31	
14代	〃	鈴 木 督 朗	H 2. 4. 1	H 4. 3. 31	
15代	〃	佐 藤 正 蔵	H 4. 4. 1	H10. 3. 31	
16代	〃	斎 藤 昭 雄	H10. 4. 1	H14. 3. 31	
17代	消 防 監	笹 田 将 良	H14. 4. 1	H16. 3. 31	
18代	〃	斎 藤 伸 夫	H16. 4. 1	H18. 3. 31	
19代	〃	工 藤 治	H18. 4. 1	H20. 3. 31	
20代	消 防 司 令 長	長 谷 川 芳 範	H20. 4. 1	H21. 3. 31	
21代	消 防 監	成 田 裕 太 郎	H21. 4. 1	H22. 3. 31	
22代	〃	佐 藤 健 治	H22. 4. 1	H23. 3. 31	
23代	〃	久 保 豊	H23. 4. 1	H24. 3. 31	
24代	〃	福 士 文 敏	H24. 4. 1	H25. 6. 30	
25代	〃	工 藤 弥 司 広	H25. 7. 1	H27. 3. 31	方面本部長兼任
26代	〃	一 町 田 誠	H27. 4. 1	H27. 10. 29	
27代	〃	阿 保 弘 毅	H27. 10. 30	H27. 11. 30	消防次長兼任
28代	〃	三 浦 良 樹	H27. 12. 1	H29. 3. 31	
29代	〃	長 尾 幸 喜	H29. 4. 1	H30. 3. 31	消防次長兼任
30代	〃	工 藤 耕 三	H30. 4. 1	在職中	消防次長兼任

東消防署長

歴 代	階 級	氏 名	就任年月日	退任年月日	摘 要
初代	消 防 司 令 長	白 取 嘉 四 雄	S52. 4. 1	S54. 3. 31	
2 代	〃	建 部 清 五 郎	S54. 4. 1	S55. 9. 30	
3 代	〃	土 岐 春 雄	S55.10. 1	S58. 3. 31	
4 代	〃	工 藤 嘉 久	S58. 4. 1	S63. 3. 31	
5 代	〃	鈴 木 督 朗	S63. 4. 1	H 2. 3. 31	
6 代	〃	赤 石 光 雄	H 2. 4. 1	H 3. 3. 31	
7 代	〃	小 山 亮	H 3. 4. 1	H 4. 3. 31	
8 代	〃	山 田 俊 昭	H 4. 4. 1	H 8. 3. 31	
9 代	〃	斎 藤 昭 雄	H 8. 4. 1	H10. 3. 31	
10 代	〃	佐 藤 正 蔵	H10. 4. 1	H11. 3. 31	
11 代	〃	小 山 内 国 晴	H11. 4. 1	H12. 3. 31	
12 代	〃	山 本 正 弘	H12. 4. 1	H13. 3. 31	
13 代	〃	猪 股 進 三	H13. 4. 1	H14. 3. 31	
14 代	〃	斎 藤 伸 夫	H14. 4. 1	H16. 3. 31	
15 代	〃	工 藤 昇	H16. 4. 1	H20. 3. 31	(H18. 4. 1 消防監)
16 代	〃	成 田 裕 太 郎	H20. 4. 1	H21. 3. 31	
17 代	〃	佐 藤 健 治	H21. 4. 1	H22. 3. 31	
18 代	〃	成 田 康 晴	H22. 4. 1	H23. 3. 31	
19 代	消 防 監	福 士 文 敏	H23. 4. 1	H24. 3. 31	
20 代	消 防 司 令 長	三 上 吾 郎	H24. 4. 1	H25. 3. 31	
21 代	消 防 監	工 藤 弥 司 広	H25. 4. 1	H25. 6. 30	
22 代	〃	阿 保 弘 毅	H25. 7. 1	H26. 3. 31	
23 代	〃	一 町 田 誠	H26. 4. 1	H27. 3. 31	
24 代	〃	村 山 潤 一	H27. 4. 1	H29. 3. 31	
25 代	〃	山 本 新 次	H29. 4. 1	H30. 3. 31	
26 代	〃	川 村 勝 明	H30. 4. 1	在職中	

黒石消防署長

歴 代	階 級	氏 名	就任年月日	退任年月日	摘 要
初代	消 防 司 令	岡 崎 良 雄	S27. 4. 1	S33. 3. 31	消防長兼任
2代	〃	工 藤 薫 三	S33. 4. 3	S38. 12. 31	
3代		角 田 壮 一	S39. 1. 1	S39. 3. 19	助役兼任
4代	消 防 司 令	田 村 源 五 郎	S39. 3. 20	S42. 9. 30	
5代		角 田 壮 一	S42. 10. 1	S43. 3. 31	助役兼任
6代	消 防 司 令 長	簀 屋 正 三	S43. 4. 1	S44. 11. 30	
7代	〃	盛 重 徳	S44. 12. 1	S49. 3. 31	
8代	消 防 監	角 田 壮 一	S49. 4. 1	S54. 7. 31	消防長兼任
9代	〃	山 口 勇 蔵	S54. 8. 1	S55. 3. 31	〃
10代	消 防 司 令 長	岩 谷 克 己	S55. 4. 1	S62. 3. 31	
11代	〃	高 樋 浅 光	S62. 4. 1	H 4. 3. 31	
12代	〃	工 藤 茂 春	H 4. 4. 1	H 5. 3. 31	
13代	〃	佐 藤 信 男	H 5. 4. 1	H 7. 3. 31	
14代	〃	坂 本 吉 雄	H 7. 4. 1	H 8. 3. 31	
15代	〃	富 谷 勝 徳	H 8. 4. 1	H11. 3. 31	消防次長兼任
16代	〃	高 田 正 志	H11. 4. 1	H12. 3. 31	〃
17代	〃	中 村 寿	H12. 4. 1	H13. 3. 31	
18代	〃	福 士 良 衛	H13. 4. 1	H16. 3. 31	
19代	〃	豊 巻 正 夫	H16. 4. 1	H18. 3. 31	
20代	〃	佐 藤 昭 秀	H18. 4. 1	H21. 3. 31	
21代	〃	今 清 治	H21. 4. 1	H22. 3. 31	
22代	〃	山 本 茂 夫	H22. 4. 1	H23. 3. 31	
23代	〃	相 馬 義 春	H23. 4. 1	H25. 3. 31	
24代	〃	村 山 潤 一	H25. 4. 1	H26. 3. 31	
25代	消 防 監	内 山 進 一 郎	H26. 4. 1	H29. 3. 31	方面本部長兼任 (H27. 4. 1 方面本部長兼任解除)
26代	〃	工 藤 耕 三	H29. 4. 1	H30. 3. 31	
27代	〃	中 村 康 司	H30. 4. 1	在職中	

平川消防署長

歴 代	階 級	氏 名	就任年月日	退任年月日	摘 要
初代	消 防 司 令 長	中 畑 忠 三	S44. 4. 1	S48. 3. 31	消防次長兼任
2代	〃	古 川 清 孝	S48. 4. 1	S49. 3. 31	〃
3代	〃	工 藤 専 次 郎	S49. 4. 1	S51. 6. 30	〃
4代	消 防 司 令	船 水 永 一 郎	S51. 7. 1	S54. 3. 31	〃
5代	消 防 司 令 長	水 木 二 郎	S54. 4. 1	S55. 3. 31	〃
6代	〃	阿 部 貞 吉	S55. 4. 1	S57. 3. 31	〃
7代	〃	大 川 隆 三	S57. 4. 1	S59. 12. 31	〃
8代	〃	三 浦 孝 利	S60. 1. 1	S61. 3. 31	〃
9代	〃	長 内 精 四 郎	S61. 4. 1	H 2. 2. 22	〃
10代	〃	相 馬 伊 佐 男	H 2. 2. 23	H 3. 3. 31	
11代	〃	工 藤 文 夫	H 3. 4. 1	H 5. 3. 31	消防次長兼任
12代	〃	工 藤 栄 造	H 5. 4. 1	H 8. 3. 31	
13代	〃	一 戸 武 二	H 8. 4. 1	H12. 3. 31	
14代	〃	福 士 順 蔵	H12. 4. 1	H14. 3. 31	
15代	〃	稲 葉 良 三	H14. 4. 1	H16. 3. 31	
16代	〃	齋 藤 満 郎	H16. 4. 1	H19. 3. 31	
17代	〃	山 口 眞 一	H19. 4. 1	H20. 3. 31	
18代	〃	山 口 勇 一	H20. 4. 1	H22. 3. 31	
19代	消 防 司 令	工 藤 義 昭	H22. 4. 1	H23. 3. 31	
20代	〃	一 戸 武 彦	H23. 4. 1	H26. 3. 31	(H25. 7. 1 消防司令長)
21代	消 防 監	阿 保 弘 毅	H26. 4. 1	H27. 3. 31	方面本部長兼任
22代	〃	山 本 新 次	H27. 4. 1	H29. 3. 31	
23代	〃	山 口 金 彦	H29. 4. 1	H30. 3. 31	
24代	〃	一 戸 治	H30. 4. 1	在職中	

板柳消防署長

歴 代	階 級	氏 名	就任年月日	退任年月日	摘 要
初代		工 藤 信 一	S42. 4. 1	S42. 8. 31	総務課長兼任
2代		成 田 勝 俊	S42. 9. 1	S46. 3. 31	消防次長兼任
3代		桜 庭 敏 男	S46. 4. 1	S52. 3. 31	〃
4代		内 山 富 雄	S52. 4. 1	S54. 3. 31	〃
5代		中 村 忠 次 郎	S54. 4. 1	S60. 3. 31	〃
6代	消 防 司 令 長	阿 保 小 東	S60. 4. 1	H 2. 3. 31	〃
7代	〃	松 山 秀 雄	H 2. 4. 1	H 4. 3. 31	消防長心得兼任
8代	〃	会 津 武 志	H 4. 4. 1	H 5. 3. 31	〃
9代	〃	竹 内 秀 次	H 7. 4. 1	H11. 3. 31	消防次長兼任
10代	〃	佐 藤 廣 美	H11. 4. 1	H16. 3. 31	〃
11代	〃	会 津 静 男	H16. 4. 1	H21. 3. 31	
12代	〃	田 中 諭	H21. 4. 1	H22. 3. 31	消防次長兼任
13代	〃	三 橋 一 徳	H22. 4. 1	H23. 3. 31	
14代	〃	諏 訪 孝 栄	H23. 4. 1	H25. 3. 31	
15代	〃	村 上 毅	H25. 4. 1	H25. 6. 30	
16代	〃	阿 保 久	H25. 7. 1	H27. 3. 31	方面本部長兼任 (H26. 4. 1 消防監)
17代	〃	大 川 欽 三	H27. 4. 1	H29. 3. 31	(H28. 4. 1 消防監)
18代	〃	佐 藤 雅 幸	H29. 4. 1	在職中	(H30. 4. 1 消防監)

旧弘前地区消防事務組合の沿革

年 月	状 況
昭和 24 年 4 月	弘前市大字元寺町に弘前市消防本部及び消防署開設 職員 34 名
昭和 26 年 8 月	弘前市大字本町へ消防庁舎落成、元寺町から消防本部、消防署移転する。
昭和 27 年 3 月	消防署を廃止し、消防本部の一本化を図る。
昭和 30 年 2 月	消防職員定数改正により職員 68 名となる。
昭和 32 年 5 月	弘前市消防署再設、弘前市大字松森町に松森町分署開設する。
昭和 33 年 4 月	消防職員定数改正により職員 79 名となる。
昭和 38 年 9 月	消防職員定数改正により職員 81 名となる。
昭和 39 年 8 月	救急車を購入し、弘前市消防署で救急業務を開始する。
昭和 40 年 1 月	弘前市消防本部及び消防署庁舎落成、電話交換機、一斉指令装置を設置する。
昭和 42 年 10 月	消防長兼署長制から専任署長制となる。
昭和 43 年 12 月	弘前市大字豊田字豊原に枡形分署庁舎落成、消防業務を開始する。
昭和 44 年 12 月	弘前市大字鳥町字鳥町に藤代分署庁舎落成、消防業務を開始する。
昭和 45 年 10 月	枡形分署に 20m 級スノーケル車配備
昭和 46 年 4 月	一市二町二村（弘前市、大鰐町、藤崎町、常盤村、碓ヶ関村）により弘前地区消防事務組合発足する。
	弘前市消防職員 106 名、車両等弘前市から弘前地区消防事務組合へ移管
7 月	松森町分署に救急車配備、救急業務を開始する。
8 月	松森町分署に化学消防ポンプ自動車配備
10 月	広域消防業務を開始する。
	大鰐町大字大鰐字前田に南分署庁舎落成、消防業務を開始する。
	・水槽付消防ポンプ自動車配備 職員 10 名
	藤崎町大字水沼字浅田に北分署庁舎落成、消防業務を開始する。
	・水槽付消防ポンプ自動車配備 職員 12 名
	南分署碓ヶ関出張所（碓ヶ関村消防屯所借用）開設、消防業務を開始する。
	・水槽付消防ポンプ自動車配備 職員 7 名
昭和 47 年 2 月	南分署に救急車配備、救急業務を開始する。
4 月	職員定数改正により職員 149 名となる。
7 月	南分署、北分署に普通消防ポンプ自動車各 1 台配備
昭和 48 年 2 月	北分署に救急車配備、救急業務を開始する。
4 月	中津軽郡一町二村（岩木町、相馬村、西目屋村）組合に加入
	職員定数改正により職員 169 名となる。
6 月	西分署（岩木町消防屯所借用）開設、消防、救急業務を開始する。
	・水槽付消防ポンプ自動車、救急車配備、職員 12 名
	西分署目屋出張所（西目屋村消防屯所借用）開設、消防業務を開始する。
	・水槽付消防ポンプ自動車配備 職員 5 名

昭和 49 年	3 月	岩木町大字鳥井野字宮本に西分署庁舎落成移転する。
	7 月	弘前消防署に 35m 級はしご付消防ポンプ自動車配備
昭和 50 年	4 月	職員定数改正により職員 178 名となる。
	7 月	弘前地区消防事務組合に防災宣伝車配備（防災協会より寄贈）
昭和 51 年	8 月	南分署碓ヶ関出張所に救急車配備、救急業務を開始する。
昭和 52 年	1 月	弘前市大字外崎字豊田に東消防署庁舎落成
	4 月	職員定数改正により職員 182 名となる。 東消防署、消防、救急業務を開始する。 ・普通消防ポンプ自動車、水槽付消防ポンプ自動車、スノーケル車、救急車配備 職員 23 名 東消防署開設により 2 署 6 分署 2 出張所となる。
昭和 53 年	4 月	救助用訓練塔落成（東消防署構内）
	7 月	第 7 回全国消防救助技術大会県予選会開催（於東消防署）
	8 月	昭和 52 年 8 月の県下集中豪雨災害に際し、被害者の救援及び水防活動の功績により、消防庁長官より表彰状授与される。
	9 月	昭和 52 年 8 月の県下集中豪雨災害に際し、被害者の救援及び水防活動の功績により、内閣総理大臣より表彰状及び楯授与される。
	10 月	職員定数改正により職員 194 名となる。
昭和 54 年	4 月	職員定数改正により職員 200 名となる。
	8 月	弘前市からマイクロバス移管
	10 月	東北自動車道、青森 I C ～大鰐弘前 I C 供用開始に伴い、消防、救急業務を開始する。
昭和 55 年	9 月	弘前消防署西分署目屋出張所を弘前消防署目屋分署に、東消防署南分署碓ヶ関出張所を東消防署碓ヶ関分署に改称 碓ヶ関村大字碓ヶ関字鯨森に碓ヶ関分署庁舎落成移転（碓ヶ関村消防屯所と合同使用）
	10 月	職員定数改正により職員 201 名となる。 東北自動車道、大鰐弘前 I C ～碓ヶ関 I C 供用開始に伴い、消防、救急業務を開始する。
昭和 57 年	1 月	東消防署松森町分署廃止 弘前市大字小友字神原に西北分署庁舎落成、消防、救急業務を開始する。 ・水槽付消防ポンプ自動車、救急車、広報連絡車配備 職員 10 名 目屋分署、碓ヶ関分署に広報連絡車配備
昭和 58 年	8 月	目屋分署救急業務を開始する。
昭和 61 年	3 月	大鰐町大字蔵館字金坂に南分署庁舎落成移転
	7 月	東北自動車道全線開通に伴い、十和田 I C まで所管となる。
	12 月	東消防署に 30m 級はしご付消防自動車配備（4WS） 救急医療情報システム運用開始する。
昭和 62 年	4 月	消防本部の組織規則改正により警防課通信指令室発足 室長ほか 10 名

	11 月	東消防署に救助工作車配備
昭和 63 年	4 月	通信指令室に通信第一係、通信第二係を設ける。
	12 月	藤代分署庁舎新築
平成元年	4 月	職員定数改正により職員 207 名となる。
平成 2 年	10 月	東北自動車道小坂 I C 開通に伴い、小坂 I C まで所管となる。
平成 3 年	2 月	枅形分署庁舎新築（2 月業務開始）
	4 月	職員定数改正により職員 214 名となる。
	11 月	枅形分署に救急車を配備、救急業務を開始する。
平成 4 年	4 月	職員定数改正により職員 226 名となる。
平成 5 年	3 月	弘前消防署に高規格救急自動車配備
平成 6 年	3 月	弘前消防署に 40m 級はしご付消防自動車配備
	4 月	職員定数改正により職員 247 名となる。
平成 7 年	3 月	枅形分署に小型動力ポンプ付水槽車配備
平成 8 年	3 月	東消防署に高規格救急自動車配備
	4 月	職員定数改正により職員 256 名となる。
平成 9 年	4 月	藤代分署に救急車を配備、救急業務を開始する。
		職員定数改正により職員 268 名となる。
		弘前消防署及び東消防署に救急第一係、救急第二係を新設
平成 10 年	4 月	消防本部の組織規則改正により消防本部総務課「庶務係」を「総務係」に改める。 消防署組織規程改正により分署の「消防係」を「消防第一係、消防第二係」に改める。
		北分署に高規格救急自動車配備
平成 11 年	1 月	目屋分署庁舎新築（4 月業務開始）
	3 月	消防本部・弘前消防署仮設消防庁舎での業務開始
	5 月	東消防署に救助工作車Ⅱ型配備
平成 12 年	3 月	職員定数改正により職員 270 名となる。
	4 月	女性消防吏員採用
		西分署に高規格救急自動車配備
平成 13 年	2 月	消防本部、弘前消防署新消防庁舎での業務開始
	4 月	消防本部の組織規則改正により「通信指令室」を「通信指令課」に改める。
	4 月	南分署に高規格救急自動車配備
	12 月	弘前消防署に救助工作車Ⅱ型配備
平成 14 年	2 月	碓ヶ関分署に高規格救急自動車配備
	12 月	枅形分署に高規格救急自動車配備
平成 15 年	1 月	消防本部組織規則改正により消防本部各課に係長兼務の主幹を設ける。
	4 月	消防本部組織規則改正により消防本部警防課に救急救助係を新設
平成 16 年	4 月	消防署組織規程改正により弘前消防署及び東消防署の救急係を救急救助係に改め、主幹兼警防係長の兼務を解除し新たに、警防係、予防係、救急救助係に専任主幹を配置

平成 17 年	1 月	東消防署にはしご付消防自動車（30m級）を更新配備
	3 月	藤代分署に高規格救急自動車配備
	3 月	市町村合併に伴い、3 月 27 日をもって藤崎町及び常盤村が脱退しその区域をもって、3 月 28 日から藤崎町が加入し、構成市町村が一市三町三村となる。
	4 月	消防本部組織規則改正により消防本部各課に課長補佐を設ける。
平成 18 年	1 月	市町村合併に伴い、平成 17 年 12 月 31 日をもって碓ヶ関村が脱退し、平成 18 年 1 月 1 日から平川市（旧碓ヶ関村の区域に限る）が加入し、構成市町村が二市三町二村となる。
	2 月	市町村合併に伴い、2 月 26 日をもって弘前市、岩木町及び相馬村が脱退し、その区域をもって、2 月 27 日から弘前市が加入し、構成市町村が二市二町一村となる。
平成 19 年	3 月	西北分署に高規格救急自動車配備
	4 月	消防署組織規程改正により弘前消防署及び東消防署の救急救助係を救急係に、警防係を警防救助係に改め、新たに総務係を新設し専任主幹を配置 藤代分署、西分署、柗形分署、南分署及び北分署の消防係を警防係に改め、新たに予防救急係を新設し、各分署に消防主幹を設ける。
平成 20 年	3 月	目屋分署に高規格救急自動車配備
	7 月	弘前地区消防事務組合に防火指導車配備（防災協会より寄贈）
平成 22 年	4 月	消防本部組織規則改正により「警防課 警防係」を「警防課 警防救助係」に、「警防課 救急救助係」を「警防課 救急係」に改める。
	12 月	弘前消防署に指揮隊車配備
平成 23 年	4 月	消防署組織規程改正により、分署の「主幹」を「副分署長」に改める。
	11 月	西分署新消防庁舎での業務開始（平成 24 年 4 月 1 日全面供用開始）
平成 24 年	9 月	弘前消防署に高規格救急車を更新配備（J A 共済より寄贈） 西分署に資機材搬送車配備（国有財産等無償使用）
	3 月	西北分署に燃料補給車配備（国有財産等無償使用）

旧黒石地区消防事務組合の沿革

(旧黒石地区消防事務組合平成 24 年版消防年報から主な状況を抜粋)

年	月	状 況
昭和 27 年	4 月	黒石町消防本部・署開設、職員 7 名
昭和 29 年	7 月	町村合併により黒石市消防本部・署となる。
昭和 37 年	8 月	温湯分署開設、職員 7 名
昭和 44 年	7 月	黒石市消防庁舎新築（鉄筋コンクリート造 2 階建）
昭和 46 年	4 月	黒石市と田舎館村により黒石地区消防事務組合発足 消防本部 1、消防署 1、分署 1、職員 38 名（条例定数 57 名）
	10 月	田舎館分署開設
昭和 49 年	4 月	消防職員定数改正により職員 67 名となる。
昭和 52 年	4 月	消防職員定数改正により職員 77 名となる。
昭和 55 年	4 月	田舎館分署を田舎館消防署に昇格、1 本部、2 消防署、1 分署となる。 消防職員定数改正により職員 90 名となる。
昭和 55 年	12 月	温湯分署移転新築工事竣工、温湯分署を山形分署に名称変更 （鉄骨造平屋建 291.0 m ² ）
昭和 57 年	1 月	田舎館消防署車庫増築（鉄骨造平屋建 25.92 m ² ）
昭和 58 年	7 月	消防本部課制を施行する。
平成 6 年	10 月	消防職員定数改正により職員 95 名となる。
平成 7 年	10 月	黒石地区消防事務組合消防庁舎竣工（鉄筋コンクリート造 2 階建 2,958.83 m ² ）
	11 月	田舎館消防署竣工（鉄骨造平屋建 417.81 m ² ）
平成 9 年	4 月	黒石消防署に高規格救急車配備（日本損害保険協会から寄贈）
平成 12 年	1 月	田舎館消防署に水槽付消防ポンプ自動車（水－Ⅱ型）配備
	4 月	消防本部に通信指令課を置く。
	7 月	山形分署に広報車配備
	12 月	山形分署に水槽付消防ポンプ自動車（水－Ⅱ型）配備
平成 14 年	1 月	黒石消防署に化学消防ポンプ自動車（化－Ⅱ型）配備
平成 16 年	3 月	田舎館消防署に高規格救急車配備
	4 月	黒石消防署に高規格救急車配備（日本損害保険協会から寄贈）
	7 月	田舎館消防署に広報車配備 黒石消防本部に査察車配備
平成 19 年	1 月	山形分署に救急車（2 B 型）配備
	4 月	消防職員定数改正により職員 100 名となる。
平成 24 年	3 月	黒石消防署に災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（Ⅰ－B 型）配備 （C A F S : 圧縮空気泡装置搭載）
	10 月	消防本部に連絡車配備
	12 月	黒石消防署に救助工作車（Ⅱ型）配備

旧平川市消防本部の沿革

(旧平川市消防本部平成 24 年版消防年報から主な状況を抜粋)

年 月	状 況
昭和 44 年 4 月	平賀・尾上地区消防事務組合消防本部及び平賀消防署開設 職員 36 名（条例定数 38 名）
10 月	尾上分署開設
昭和 45 年 4 月	消防職員定数改正により職員 41 名となる。
昭和 47 年 4 月	消防職員定数改正により職員 44 名となる。
平成 2 年 2 月	平賀・尾上地区消防事務組合消防庁舎竣工（鉄筋コンクリート造 2 階建） 消防本部課制を施行する。 平賀消防署と尾上分署を廃止、名称を平賀尾上消防署とする。
平成 4 年 4 月	消防職員定数改正により職員 46 名となる。
平成 5 年 4 月	消防職員定数改正により職員 48 名となる。
平成 6 年 4 月	消防職員定数改正により職員 50 名となる。
平成 7 年 2 月	水槽付消防ポンプ自動車を配備
4 月	消防職員定数改正により職員 54 名となる。
12 月	救助工作車を配備
平成 8 年 4 月	消防職員定数改正により職員 58 名となる。 勤務制度を 2 部制から 3 部制とする。 高規格救急車を配備
平成 9 年 4 月	消防職員定数改正により職員 62 名となる。 消防本部 2 課（総務課、予防課）から 3 課（総務課、予防課、警防課）とする。
10 月	平賀・尾上地区消防事務組合消防署庁舎増築
平成 10 年 3 月	救急車（2 B 型）配備（J A 共済より寄贈）
4 月	消防職員定数改正により職員 65 名となる。
7 月	「平賀・尾上地区消防等事務組合」に名称を改める。
平成 11 年 4 月	消防職員定数改正により職員 68 名となる。 消防署通信係を消防本部通信指令室とする。
平成 13 年 4 月	消防本部通信指令室を消防署通信指令室とする。 消防職員定数改正により職員 95 名となる。
9 月	化学消防ポンプ自動車を配備
平成 17 年 6 月	指揮車を配備
平成 18 年 1 月	平川市消防本部・平川市消防署発足 広報 2 号車を配備
平成 19 年 1 月	消防ポンプ自動車を配備
平成 20 年 12 月	高規格救急車を配備（日本損害保険協会より寄贈）
平成 22 年 10 月	広報 1 号車を配備

旧板柳町消防本部の沿革

(旧板柳町消防本部平成 24 年版消防年報から主な状況を抜粋)

年 月	状 況
昭和 42 年 4 月	板柳町消防本部及び板柳町消防署開設 職員 16 名
昭和 50 年 12 月	板柳町消防庁舎竣工（鉄骨造 2 階建） 職員 30 名
昭和 52 年 4 月	板柳少年消防クラブ結成
昭和 54 年 11 月	板柳町少年婦人防火委員会発足（後に板柳町幼少年婦人防火委員会に変更） 板柳婦人防火クラブ結成
昭和 60 年 1 月	幼年消防クラブ結成
平成元年 5 月	資機材搬送車配備
平成 2 年 5 月	司令車配備
平成 4 年 8 月	水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）配備（損害保険協会より寄贈）
平成 9 年 12 月	救急車（2 B 型）配備
平成 15 年 2 月	高規格救急車配備
平成 21 年 9 月	消防ポンプ自動車配備（C D－Ⅰ型、C A F S：圧縮空気泡装置搭載） 消防職員定数 38 名